

令和7年度第1学年社会年間指導計画・評価計画

	評価の観点	評価材料
観点1	知識・技能	定期考査、小テスト
観点2	思考・判断・表現	定期考査、小テスト、提出物（授業プリント、ノート等）
観点3	主体的に学習に取り組む態度	提出物（授業プリント、ノート等）、小テスト

週3時間（地理・歴史的分野）（授業者：柴崎 史弥）

学習時期	学	習	単	元	学	習	内	容	観	点	評	価	時	期	小	学	校	の	学	習	と	の	関	連
期	月								1	2	3													
1学期	4月	【地理的分野】(60時間)			◆第1編 世界と日本の姿	第1章 世界の姿	○地球の姿 ○世界のさまざまな国々 ○地球上の位置 ○地球儀と世界地図題	○	○	○	随時	7月												
	5月	第2章 日本の姿					○日本の位置 ○時差 ○日本の領域 ○領土問題 ○日本の都道府県	○	○	○														
	6月	◆第2編 世界のさまざまな地域			第1章 世界各地の人々の生活と環境		○世界の人々の生活 ○雪と氷の中で暮らす人々 ○寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 ○温暖な土地に暮らす人々 ○乾燥した土地に暮らす人々 ○常夏の島で暮らす人々 ○標高の高い土地に暮らす人々 ○世界の気候 ○世界の宗教	○	○	○														
	9月	第2章 世界の諸地域			6節 オセアニア州		○オセアニア州の自然・文化・産業 ○貿易を通じた他地域とのつながり ○人々による他地域とのつながり	○	○	○														
	9月	4節 北アメリカ州					○北アメリカ州の自然・文化・産業 ○巨大な農業生産力と移民 ○巨大な工業生産力 ○新しい産業と生活文化	○	○	○														
	10月	5節 南アメリカ州					○南アメリカ州の自然・文化・産業 ○自然環境と共生する生活 ○開発の進行と影響	○	○	○														
	10月	2節 ヨーロッパ州					○ヨーロッパ州の自然・文化・産業 ○ヨーロッパ統合の動き ○持続可能な社会に向けて ○EUがかかえる課題	○	○	○														
	11月	3節 アフリカ州					○アフリカ州の自然・文化・産業 ○アフリカの産業と新たな開発 ○発展に向けた課題	○	○	○														
2学期	11月	1節 アジア州					○アジア州の自然・文化・産業 ○アジアNIESの成長 ○巨大な人口を支える中国 ○都市化が進む東南アジア ○急速に成長する南アジア ○資源が豊富な西アジア・中央アジア	○	○	○	随時	12月												
	12月	◆第3編 日本のさまざまな地域			第1章 地域調査の手法		○調査の準備 ○野外観察・聞き取り調査 ○資料を使った調査 ○調査のまとめ ○調査結果の発表	○	○	○														
	5月	【歴史的分野】(45時間)			第1章 歴史への扉	1節 歴史をとらえる見方・考え方	○時期や年代の表し方 ○歴史の流れのとらえ方 ○時代の特色のとらえ方	○	○	○														
		2節 身近な地域の歴史					○テーマを決めて調査・考察しよう ○まとめと発表をしよう	○	○	○														
3学期	6月	第2章 古代までの日本			1節 世界の古代文明と宗教のおこり		○人類の出現と進化 ○古代文のおこりと発展 ○中国文明の発展 ○ギリシャ・ローマの文明 ○宗教のおこりと三大宗教	○	○	○	随時	7月												
	7月	2節 日本列島の誕生と大陸との交流					○旧石器時代と縄文文化の暮らし ○弥生時代の暮らしと邪馬台国 ○大王の時代	○	○	○														
		3節 古代国家の歩みと東アジア世界					○聖徳太子の政治改革 ○東アジアの緊張と律令国家への歩み ○律令国家の成立と平城京 ○奈良時代の人々の暮らし ○天平文化 ○平安京と律令国家の変化 ○摂関政治の時代 ○国風文化	○	○	○														
	9月	第3章 中世の日本			1節 武士の政権の成立		○武士の成長 ○院政から武士の政権へ ○鎌倉幕府の成立と執権政治 ○武士と民衆の生活 ○鎌倉時代の文化と宗教	○	○	○														
	12月	2節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開					○モンゴル帝国とユーラシア世界 ○モンゴルの襲来 ○南北朝の動乱と室町幕府 ○東アジアとの交流 ○産業の発達と民衆の生活 ○応仁の乱と戦国大名 ○室町文化とその広がり	○	○	○														
	2月							○	○	○														

家庭での学習方法・学習のアドバイス

- 社会科の学習で大切なこと
- ①根拠をもとに自分の考えをもつこと ②仲間と考えを共有し、自分の考えを深めること ③自分で判断できる力を身につけること
- ④「なぜ」「どうして」という疑問をもって、学習内容と社会で起きている出来事とのつながりについて興味・関心をもって追究すること
- 地理的分野のポイント
- ①ニュースを見たり新聞を読んだりして社会で起きている出来事に興味・関心を持ち、どの国・地域・都道府県で起きているのか常に地図帳で場所を確認しよう。
- ※日本の都道府県の位置は、すべて暗記すること。
- ※世界の国の位置は、授業中に学習したものはすべて暗記すること。
- ②資料（統計資料やグラフ等）の読み取りや簡単な計算（人口密度、総数、割合、時差等）が大切です。読み取った情報を根拠として、自分の考えを持つことができるようになること。
- ③地域間の共通点と相違点に注目すること。そして、なぜ「同じ」なのか、「違う」のかについて、背景や理由について考え、理解すること。
- 歴史的分野のポイント
- ①教科書を読むときは「5W1H」を意識すること。※5W1H（だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、どのように）
- ②地図帳を活用して「どこで」起きた出来事なのか調べること。
- ③年表を活用して「いつ」起きた出来事なのか歴史の大きな流れを理解すること。「流れ」を意識し、時代の特徴を大観すること。
- ④歴史的分野は3年間継続して学習してきた。義務教育最後の年に「なぜ、歴史を学ぶのか」について自分の結論を持つこと。
- ⑤社会情勢を踏まえて「なぜ、戦争や紛争がなくなるのか」について自分なりの考えをもつこと。

令和7年度第2学年社会科年間指導計画・評価計画

	評価の観点	評価材料
観点1	知識・技能	定期考査、小テスト、提出物（授業プリント）
観点2	思考・判断・表現	定期考査、小テスト、提出物（レポート）
観点3	主体的に学習に取り組む態度	提出物（レポート）、小テスト

週2時間（地理的分野）
週1時間（歴史的分野）

（授業者；白谷 季寛）
（授業者；柴崎 史弥）

※進度や内容に応じて地理的分野と歴史的分野を同時並行で授業する場合もあります。

学習時期	指導計画		観 点			評価 時期	小学校の学習との関連		
期 月	学 習 単 元	学 習 内 容	1	2	3				
1	4月	【地理的分野】 第3編 日本のさまざまな地域 第2章 日本の地域的特色と地域区分	地形から見た日本の特色／気候から見た日本の特色／自然災害と防災・減災への取り組み／人口から見た日本の特色／資源・エネルギーから見た日本の特色／産業から見た日本の特色／交通・通信から見た日本の特色／日本の地域区分	○	○	○	随時 7月	4年 都道府県の様子 5年 我が国の国土の様子 と国民生活、農業や水産業、工業生産、業と情報との関わり	
	6月	第3章 日本の諸地域 ●九州地方	九州地方をながめて／自然環境に適応する人々の工夫／自然の制約の克服と利用／持続可能な社会をつくる／	○	○	○			
	7月	●中国・四国地方	中国・四国地方をながめて／交通網の整備と人や物の移動の変化／交通網が支える産業とその変化／活用される交通・通信網	○	○	○			
2	9月	●近畿地方	近畿地方をながめて／大都市圏の形成と都市の産業／ニュータウンの建設と都市の開発／変化する農村の暮らし／	○	○	○	随時 12月		
	10月	●中部地方	中部地方をながめて／特色ある東海の産業／特色ある中央高地の産業／特色ある北陸の産業／	○	○	○			
	10月	●関東地方	関東地方をながめて／世界と結び付く東京／東京を生活圏とする人々の暮らしと交通／関東地方の多様な産業／	○	○	○			
	11月	●東北地方	東北地方をながめて／祭りや年中行事の伝統とその変化／伝統工芸品の生産・販売とその変化／過去の継承と未来に向けた社会づくり／	○	○	○			
	12月	●北海道地方	北海道地方をながめて／自然の制約に適応する人々の工夫／自然の制約や社会の変化を乗り越える／自然の特色を生かした産業／	○	○	○			
3	1月	●北海道地方	北海道地方をながめて／自然の制約に適応する人々の工夫／自然の制約や社会の変化を乗り越える／自然の特色を生かした産業／	○	○	○	随時 3月		6年 キリスト教の伝来 織田・豊臣の天下統一
	1月	第4章 地域の在り方	身近な地域の課題を見つめる／課題を調査する／要因を考察する／解決策を構想する／地域の将来像を提案する／	○	○	○			
	3月								
1	4月	【歴史的分野】 第4章 近世の日本 1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	織田信長・豊臣秀吉による統一事業／兵農分離と秀吉の対外政策／桃山文化／	○	○	○	随時 7月	6年 江戸幕府の始まり 参勤交代や鎖国などの幕府の政策 身分制 歌舞伎や浮世絵 国学や蘭学	
	5月	2節 江戸幕府の成立と対外政策	江戸幕府の成立と支配の仕組み／さまざまな身分と暮らし／貿易の振興から鎖国へ／鎖国下の対外関係／琉球王国やアイヌ民族との関係／	○	○	○			
	6月	3節 産業の発達と幕府政治の動き	農業や諸産業の発展と都市の繁栄と交通路の整備／幕府政治の安定と元禄文化／享保の改革と社会の変化／田沼意次と寛政の改革／新しい学問と文化／外国船の出現と天保の改革／	○	○	○			
	2	7月	第5章 開国と近代日本の歩み 1節 欧米における近代化の進展	イギリスとアメリカの革命／フランス革命／ヨーロッパにおける国民意識の高まり／ロシアの拡大とアメリカの発展／産業革命と資本主義／	○	○	○	随時 12月	6年 文明開化、廃藩置県、大日本帝国憲法、
		10月	2節 欧米の進出と日本の開国	欧米のアジア侵略／開国と不平等条約／開国後の政治と経済／江戸幕府の滅亡／	○	○	○		
		12月	3節 明治維新	新政府の成立／明治維新の三大改革／富国強兵と文明開化／近代的な国際関係／国境と領土の画定／領土をめぐる問題の背景／自由民権運動の高まり／立憲制国家の成立／	○	○	○		
		12月			○	○	○		
		1月			○	○	○		
	3	3月					随時 3月		

家庭での学習方法・学習のアドバイス

◆ 社会科の家庭での学習は、「復習」を中心に行ってください。家庭での復習の方法は以下の通りです。

1. ノート（または、プリント）を見て、授業の内容の要点をまとめる。
※「めあての理解」と「重要な語句の暗記」を中心に取り組む。

2. 授業中に見た資料（グラフ・写真・文字資料等）を教科書や資料集で確認し、何が読み取ることができる資料なのか要点をまとめる。

3. 学習した内容に関する「歴史・地理小テスト」や「問題集」を以下の方法で解く。
①何も見ないで解く ⇒ ②教科書・資料集等を使って調べて解く ⇒ ③答えを見る
※間違えた問題を何度も解くこと。また、正解した問題も日にちを空けて解くこと。
※記憶を定着させるためには、「継続」「反復」が大切です。また、寝る前と朝起きてすぐに同じ内容を学習すると効果的です。

◆ その他社会科の学習に関すること

1. 社会科で大切にしたいこと
①根拠のある自分の考えをもつこと ②仲間と考えを共有し、自分の考えを深めること ③自分で判断できる力を身につけること

2. 「なぜ」「どうして」という疑問をもって、学習内容と社会で起きている出来事のつながりについて理解できることが大切です。

3. 歴史のポイント
①教科書を読むときは「5W1H」を意識すること。※5W1H（だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、どのように）
②地図帳を活用して、「どこで」起きた出来事なのか調べること。
③年表を活用して、「いつ」起きた出来事なのか歴史の大きな流れを理解すること。※年号ではなく「流れ」を意識すること。
④日本の歴史が外国の出来事や関わりによって大きく影響を受けていることを理解すること。

4. 地理のポイント
①ニュースを見たり新聞を読んだりして社会で起きている出来事に興味・関心を持ち、どの国・地域・都道府県で起きているのか常に地図帳で場所を確認しよう。
※日本の都道府県の位置は、すべて暗記すること。
※世界の国の位置は、授業中に学習したものはすべて暗記すること。
②資料（統計資料やグラフ等）の読み取りや簡単な計算（人口密度、総数、割合、時差等）が大切です。読み取った情報を根拠として、自分の考えを持つことができるようになること。
③地域間の共通点と相違点に注目すること。そして、なぜ「同じ」なのか、「違う」のかについて、背景や理由について考え、理解すること。
④時差の求め方や地形図、雨温図の読み取り方のポイントを理解すること。2年生の定期考査でも出題する予定です。

- 1 -

令和 7 年 度 第 3 学 年 社 会 年 間 指 導 計 画 ・ 評 価 計 画

	評 価 の 観 点	評 価 材 料
観点 1	知識・技能	定期考査、小テスト、単元テスト、レポート等
観点 2	思考・判断・表現	定期考査、単元テスト、提出物（レポート、授業プリント等）
観点 3	主体的に学習に取り組む態度	提出物（レポート、授業プリント、ノート等）

週 3 時間（公民的分野）授 業 者 白 谷 季 寛（ ）

週 1 時間（歴史的分野）浦 達 志（ ）

学 習 時 期		指 導 計 画		観 点			評 価 時 期	小 学 校 の 学 習 と の 関 連
期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	1	2	3		
1	4 月	【歴史的分野】 第 1 章 開国と近代日本の歩み 4 節 日清・日露戦争と近代産業	欧米列強の侵略と条約改正／日清戦争／日露戦争／韓国と中国／産業革命の進展／近代文化の形成／	○	○	○	随時 7 月	6 年 日中戦争 第二次世界大戦
		第 6 章 二度の世界大戦と日本 1 節 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦／ロシア革命／国際協調の高まり／アジアの民族運動／	○	○	○		
	7 月	2 節 大正デモクラシーの時代	大正デモクラシーと政党内閣の成立／広がる社会運動と男子普通選挙の実現／新しい文化と生活／	○	○	○		
	9 月	3 節 世界恐慌と日本の中国侵略	世界恐慌とブロック経済／欧米の情勢とファシズム／昭和恐慌と政党内閣の危機／満州事変と軍部の台頭／日中戦争と戦時体制	○	○	○		
	10 月	4 節 第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦の始まり／太平洋戦争の開始／戦時下の人々／戦争の終結／	○	○	○	随時 12 月	6 年 日本国憲法 6 年 オリンピック
	11 月	第 7 章 現代の日本と私たち 1 節 戦後日本の出発	占領下の日本／民主化と日本国憲法／	○	○	○		
	11 月	2 節 冷戦と日本の発展	冷戦の開始と植民地の解放／独立の回復と 5 5 年体制／緊張緩和と日本外交／日本の高度経済成長／マスメディアと現代の文化	○	○	○		
	2 月	3 節 新たな時代の日本と世界	冷戦後の国際社会／冷戦後の日本／持続可能な社会に向けて／	○	○	○	随時 3 月	
2	4 月	【公民的分野】 第 1 編 私たちと現代社会 ① 私たちが生きる現代社会の特色 ② 現代社会の文化と私たち ③ 現代社会の見方・考え方	少子高齢化／情報化／グローバル化／持続可能な社会／伝統文化と多様性／対立と合意／効率と公正／決まりの意義・決まりを守る責任とその評価／	○	○	○	随時 7 月	4 年 地域社会を営む上での法やきまり 5 年 情報化社会
	6 月	第 2 編 私たちの生活と政治 第 1 章 個人の尊重と日本国憲法 ① 法に基づく政治と日本国憲法 ② 日本国憲法と基本的人権 ③ 日本の平和主義	政治と民主主義／日本国憲法と三つの基本原則／国民主権／人権思想のあゆみ／自由権／平等権／社会権／参政権と請求権／新しい人権／人権保障／公共の福祉と国民の義務／日本の平和主義／	○	○	○		6 年 日本の政治の働き 日本国憲法
	9 月	第 2 編 私たちの生活と政治 第 2 章 国民主権と日本の政治 ① 民主政治と政治参加 ② 国の政治のしくみ ③ くらしを支える地方自治	民主政治のしくみ／選挙の意義としくみ／政党／政治参加と世論／国会の地位としくみ／国会の仕事／内閣のしくみと議院内閣制／行政権／裁判所／裁判のしくみと人権の尊重／司法と裁判員制度／三権分立と政治参加／地方自治のしくみ／地方自治と国の関係／	○	○	○		3 年 公共施設 6 年 国会・内閣・裁判所のしくみ 租税・国民の司法参加 地方公共団体や国の政治の働き
	10 月	第 3 編 私たちの生活と経済 ① 経済のしくみと消費生活 ② 生産の場としての企業 ③ 金融のしくみとお金の大切さ	経済のしくみ／経済活動の意義／消費生活／消費者の権利と自立／ものの流れと情報の流れ／市場のしくみと価格／生産活動のしくみ／株式会社と企業の社会的責任／企業の競争と独占／グローバル化する経済／景気の変動／労働者を支えるしくみ／変化する雇用形態／女性と高齢者の雇用／金融のしくみ／日本銀行と金融政策／金融のグローバル化と為替相場／財政のはたらき／税と国債／社会保障のしくみ／少子高齢化社会における福祉の充実／環境保全と政府／	○	○	○	随時 12 月	3 年 消費生活、生産と販売の仕事
	11 月	④ 財政と国民の福祉	国際社会と持続可能性／国家と国際関係／日本の領土をめぐる問題／国際連合の目的とはたらき／グローバル化と地域統合／世界のさまざまな文化や宗／現代の戦争と平和／世界の軍縮と日本／日本の平和主義と国際貢献／発展途上国と多様化する世界／資源・エネルギー問題／環境問題と国際協力／持続可能な社会をめざして	○	○	○		
	3 1 月	第 4 編 私たちと国際社会 ① 国家と国際社会 ② 国際社会の課題と私たちの取り組み	持続可能な社会をめざすには	○	○	○	随時 3 月	5 年 環境保全 6 年 国際協力・国際連合
	1 月	第 5 編 私たちの課題		○	○	○		

家庭での学習方法・学習のアドバイス

- 社会科の学習で大切なこと
- ①根拠をもとに自分の考えをもつこと ②仲間と考えを共有し、自分の考えを深めること ③自分で判断できる力を身につけること
- ④「なぜ」「どうして」という疑問をもって、学習内容と社会で起きている出来事のつながりについて興味・関心をもって追究すること
- 歴史的分野のポイント
- ①教科書を読むときは「5W1H」を意識すること。※5W1H（だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、どのように）
- ②地図帳を活用して「どこで」起きた出来事なのか調べること。
- ③年表を活用して「いつ」起きた出来事なのか歴史の大きな流れを理解すること。「流れ」を意識し、時代の特徴を大観すること。
- ④歴史的分野は3年間継続して学習してきた。義務教育最後の年に「なぜ、歴史を学ぶのか」について自分の結論を持つこと。
- ⑤社会情勢を踏まえて「なぜ、戦争や紛争がなくなるのか」について自分なりの考えをもつこと。
- 公民的分野のポイント
- ①ニュースや新聞を読んで現代社会で起きている出来事に興味・関心を持つとともに、「自分事」として問題点を捉えること。
- ②政治と経済、国際問題などについて「対立と合意」「効率と公正」「自由・権利・義務」などの視点を持って、どうすればよりよい社会にすることができののかという視点で授業を受けること。3年後、選挙に行つて権利を行使するために判断する力を身につけること。
- ③有用な資料を見つける力と資料（統計資料やグラフ等）から正しく読み取った情報を根拠として、自分の考えを持つことができるようになること。